

感染症科

1. 体制

感染症科は、平成 21 年から感染制御対策室と同義であり、院内感染制御対策と感染症診療支援業務活動を行ってきたが、平成 28 年度の平成 29 年（2017 年）1 月より感染制御対策チーム（ICT）と感染症科（感染症診療支援）に分かれて業務を行っている。今年度の特徴としては、2020 年からの新型コロナウイルス・パンデミック以降、感染制御に対する研修希望者が増え、スタッフによる診療体制をさらに強化して、初期研修医の院内教育および院外発表の機会を増やしたことである。

a. スタッフ

医師：

羽田 敦子	小児科部長、感染症科兼務	部長（Infection Control Doctor, ICD）
丸毛 聡	呼吸器内科・感染症科兼務	部長（Infection Control Doctor, ICD）
井上 大生	呼吸器内科・感染症科兼務	部長（Infection Control Doctor, ICD）
中島 俊樹	リウマチ膠原病内科・感染症科兼務	副部長
山本 健人	消化器外科・感染症科兼務	副部長
塚口 諒	糖尿病内分泌内科・感染症科兼務	
森 雄貴	消化器内科・感染症科兼務	専攻医
伊藤 凌	消化器内科・感染症科兼務	専攻医
大堂真一郎	消化器内科・感染症科兼務	専攻医
辻村 敦史	脳神経内科・感染症科兼務	専攻医
松本佳己	脳神経内科・感染症科兼務	専攻医
森内俊達	脳神経内科・感染症科兼務	専攻医
大島 正義	血液内科・感染症科兼務	専攻医
羽田美沙祈	血液内科・感染症科兼務	専攻医
大植薫	腎臓内科・感染症科兼務	専攻医
酒井 達紘	小児科・感染症科兼務	専攻医
中川 隆太郎	小児科・感染症科兼務	専攻医
岩阪 晋吾	リウマチ膠原病内科・感染症科兼務	専攻医
杉山 純平	脳神経外科・感染症科兼務	専攻医
羽生 敬	脳神経外科・感染症科兼務	専攻医
赤津希海	脳神経外科・感染症科兼務	専攻医
秋山蒼	初期研修医（SR2）	
上山祐志	初期研修医（SR2）	
菊池聡太	初期研修医（SR2）	
嶋田有紗	初期研修医（SR2）	
田中和音	初期研修医（SR2）	
辻野聡一	初期研修医（SR2）	

服部恵実 初期研修医 (SR2)
 阪上 陽菜 初期研修医 (SR1)
 宮澤 真理 初期研修医 (SR1)

看護師 (専従感染管理認定看護師) :

亀澤 恵看護師、梅地 加奈子主任、濱 ひろみ師長

薬剤師 :

上田 覚 薬剤部副部長 (抗菌化学療法認定薬剤師、感染制御専門薬剤師)
 高橋 有 薬剤部係長 (感染制御専門薬剤師)
 小林 和博 薬剤部主任 (感染制御認定薬剤師)

臨床検査技師 :

宇野 将一 臨床検査技師部副技師長
 中塚 由香利 臨床検査技師部係長
 小林 賢治 臨床検査技師部主任

b. 診療実績

1. 感染防止対策加算対象の院内感染症に関する取り組み

(1) 感染症治療介入

管理抗菌薬使用患者、血液培養陽性患者、重症感染症患者をリストアップし、毎週木曜日にカンファレンスを行い、患者の病状や抗菌薬の使用状況の確認、感染症治療の指導を行った。令和6年度は2016件であった。(令和5年度2529件、令和4年度2087件、令和3年度2275件、令和2年度2496件、平成31年度2199件)。

内訳 :

リ膠	眼科	形外	血液	呼外	呼内	産婦	児外	耳鼻	小児
59	6	29	357	39	314	53	13	23	47

消外	消内	心外	循内	腎内	整形	糖内	乳腺	脳外	納内
304	171	37	146	65	71	43	2	52	114

泌尿	皮膚	精神	腫内	救急	外来	計
60	10	0	1	0	0	2016

(2) 抗菌薬の適正使用の推進 (Antimicrobial Stewardship Team, AST 活動)

i. 抗 MRSA 抗菌薬・広域抗菌薬の使用状況の確認

抗 MRSA 抗菌薬については、TDM を通して使用状況を確認し、適正使用を推進した。TDM 症例でコントロールに難渋する症例や長期投与症例については、感染症カンファレンスの際に感染症科医師と検討し、診療支援を行った。

(1) TDM 対象外の抗 MRSA 抗菌薬や広域抗菌薬について、また、使用方法に疑問があれば AST 担当薬剤

師が相談に応じた。使用状況を確認し、各病棟での使用状況を病棟薬剤師が監視した。その際に解決できない症例については、感染症専門医への適宜相談等を行い、抗菌薬の適正使用を推進した。

1. 広域抗菌薬長期投与者への介入

- (1) 2015年1月より、カルバペネム系抗菌薬を15日以上継続投与中の患者を長期投与者としてリストアップし、切り替え提案や適正使用を促す等の介入を開始している。カルバペネム系抗菌薬は64件(58人)、タゾバクタム・ピペラシリン長期投与者24件(23人)、抗MRSA薬長期投与者67件(57人)となり、合計件数は155件(138人)であった。(令和5年度121人、令和4年度91人、令和3年度89人、令和2年度89人、令和元年(平成31年)度79人、平成30年度77人)。対象患者数はカルバペネム系薬は減少したが、タゾバクタム・ピペラシリン、抗MRSA薬は増加し、合計数は増加した。

2. 職員研修

- (1) 第1回 ICT・AST 合同講習会 『抗菌薬適正使用とAST活動』
上田 覚 薬剤師
- (2) 第2回 ICT・AST 合同講習会 『菌血症について-抗菌薬の適正使用について』
大角 翔太 医師

3. 感染症科業務

① 血液培養陽性患者アラート 月～金曜日

血液培養陽性患者に対して、適切な抗菌薬投与が開始され、中心静脈カテーテルの抜去や血液培養陰性化確認等感染管理上の適切な処置がなされているか確認し、翌カンファレンスにて介入症例を検討の上、指導した。令和6(2024)年度786件である。(参考：令和5年(2023)年度580件、令和4(2022)年度580件、令和3(2021)年度581件、令和2(2020)年度631件、H31・R元(2019)年度977件)

② 感染症診療対診+随時コンサルテーション

主に院内感染症に対する抗菌薬選択、投与期間等について、令和6年度は88件(令和5年度は104件、令和4年度は104件、令和3年度は135件、令和2年度101件、令和元年(平成31年)度122件)の対診と随時コンサルテーションを受けた。

③ B型肝炎防止プロジェクト 月1回前年度に引き続き、免疫抑制・化学療法により発症するB型肝炎再活性化防止対策として、対象診療科の医師宛に7,613件の検査警告メールを配信した(2023年度10,265件、2022年度5895件、2021年度6596件、2020年度6218件、2019年度6467件、2018年度4895件)。また、随時質問を受けている。対象：抗癌剤、免疫抑制剤、抗リウマチ剤、ステロイド(中等度以上長期にわたる症例)投与患者のうち、HBs抗原、HBc抗体、HBs抗体検査が未実施の患者

④ C型肝炎感染アラート C型肝炎ウイルス感染者見落とし防止のため、HCV抗体陽性患者119件(延べ)(2023年度延べ188件)の診療科医師宛にアラートメールを配信した。

⑤ 入院中TBアラート 月1回

長期入院で結核発症リスクの高い患者を抽出し、担当医へレントゲン撮影および抗酸菌培養を勧告。2024年度は83件。(2023年度は155件、2022年度は253件)。

⑥ 梅毒アラート 月1回

2024年度は、年間10件、

(2023年度年間18件、2022年度年間28件、2021年度年間23件、2020年度30件)に対して梅毒検査陽性患者に対し、適切な検査と治療が行われているか確認し、必要に応じて指導した。届け出されていない場合には保健所に届けるよう勧告した。

c. 研究実績－論文・学会発表のテーマ・発表者

(1) 論文

原著なし

(2) 学会発表

1. 上田 覚 高橋 有, 小林 和博, 羽田 敦子, 中村 しほり, 尾上 雅英 (公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院) 「テイコプラニンによるレッドマン症候群が疑われた1例」 第72回日本化学療法学会西日本支部総会・第94回日本感染症学会西日本地方会学術集会 合同学会 2024年11月14日～2024年11月16日 神戸市
2. 小林 和博 他 「未来の医療の鍵を握る若手薬剤師による抗菌薬適正使用支援活動を活性化するエビデンスの創出」 第34回 日本医療薬学会年会, シンポジウム 2024年11月2日～2024年11月4日
3. 嶋田 有紗、高橋有, 小林和博, 上田覚, 中島俊樹, 井上大生, 丸毛聡, 羽田敦子 (公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院)「急性腎障害を契機に発症したCFPM脳症の一例」 第72回日本化学療法学会西日本支部総会・第94回日本感染症学会西日本地方会学術集会 合同学会 2024年11月15日(金) 神戸市
4. 宮澤 真理, 羽田 敦子, 大西 健仁, 吉岡 孝和, 塩田 光隆 (公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院) 「当院にてコロナ禍以降の4年間で入院を要したRSウイルス感染症の臨床的検討 酸素・人工呼吸器使用の臨床的特徴」 第56回日本小児感染症学会総会・学術集会 2024年11月17日(日) 長崎市
5. 田中 和音, 羽田 敦子, 大西 健仁, 土井 脩平, 後藤 直人, 松村 誠紀, 酒井 達紘, 中川 権史, 吉岡 孝和, 塩田 光隆 (公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院) 「菌血症、細菌性髄膜炎、硬膜下膿瘍、感染性心内膜炎合併の侵襲性肺炎球菌感染症(IPD)を発症した無脾症または脾臓低形成幼児の1例」 第56回日本小児感染症学会総会・学術集会 2024年11月17日(日) 長崎市
6. 秋山 蒼, 羽田 敦子, 大西 健二, 吉岡 孝和, 塩田 光隆 (公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院) 「当施設における小児菌血症患者と肺炎球菌菌血症患者の検討」 第56回日本小児感染症学会総会・学術集会 2024年11月17日(日) 長崎市
7. 阪上 陽菜, 羽田 敦子, 大西 健仁, 磯部 葵, 松村 誠紀, 中里 亦思, 上野 薫, 吉岡 孝和, 塩

田 光隆（公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院） 「肺炎球菌菌血症に感染後糸球体腎炎を併発した一例」 第56回日本小児感染症学会総会・学術集会 2024年11月17日（日） 長崎市

（3） 院外活動

特になし

（4） 講演会

第22回北大阪感染症研究会 2025年1月22日（水）

【教育講演】 18:30～18:45

座長 医学研究所北野病院 リウマチ膠原病内科主任部長 井村嘉孝先生

演題名

「メチシリン耐性黄色ブドウ球菌菌血症に対するテイコプラニンとバンコマイシンの効果」

講師 医学研究所北野病院 リウマチ膠原病内科・感染症科 中島俊樹先生

【特別講演】 18:45～20:00

座長 医学研究所北野病院 感染症科部長 羽田 敦子

演題名

「抗微生物薬による治療の原理と原則：Go David!」

講師

佐賀大学医部 国際医療学講座臨床感染症分野 教授

佐賀大学医部 附属病院感染制御部 部長 青木洋介 先生